

# 2011年国際森林年メッセージ(案)についての国民からのご意見

## <メッセージ案に対する具体的意見>

- 分かりやすいメッセージだと思う。このメッセージを如何に周知してもらえるか、今後の展開を期待しています。
- 都会のど真ん中に住んでいて、森づくりに参加したくてもできないと思いましたが、ほかの形で参加できることがあると改めて分かりました。
- 東日本大震災のことを考慮に入れており、非常に良いと思う。
- 「一人ひとり意識を持って森を守る」総論は良いのですが、実際何をすべきなのか、分かりません。「森では喰っていけない実態」をもっと直視し、その障害を取り除くことこそ大切だと思います。“喰える”ことになれば、皆が参加します。「少し寄附すれば事足りる」というようにこの案のメッセージは言っている。根本策「喰える森業」、「喰える間伐材」などもっと工夫すべきではないでしょうか。
- 大切な森林をどうやって守っていくかの方法論と、それを確かに実行していくための担保を如何に確保するかが必要。方法論は、国内林業を自立可能なものにする、それによって循環が確保できる。産業として、取り組むことで未来永劫に森林の再生が可能となる。森林の維持管理に林業の存在を認識する。このことをメッセージの内容にぜひ入れてほしい。ボランティアや仲間作りはとても大事だが、それだけでは、日本の森林は守れないことを共通認識にすべき。
- 形容句が多すぎて、直接的でなく、全体がぼんやりしている。その為、達成できなかったとしても、責任の取りようのない作文となっている。数値と時期を挙げて、実施が確実になされるように、そして、その計画途中においても、計画そのものを見直せるような仕組みのためにも、数値目標を挙げ、メッセージの作成者の責任を明示できるようなメッセージにして頂きたい。セシウム落下森をどうするのか、何も挙げていないのは、どういうわけか。
- <人づくり>において、先は(1)が最重要課題です。私は小さいとき、幼稚園の行き帰り往復3時間でした。各々30分間は山をかけめぐり、ほら穴に入ったり、鶯や鳥々と会話を友達5~6人と体験しました。今振り返りますと、伽の国の世界でした。が現実でしたのです。ここまでは取り戻せなくても森での楽しみは十分できます。その体験は子供達に何かを与えるでしょう。理屈よりも体験の機会を子どもたちに与えてください。
- 1.メッセージ 案1に一票。2. 行動への提案 <森づくり>に関して「心に安らぎを与え、文化・芸術の創造活動の場となる森林の再生を目指します。」経済活動とともに「精神面で有益な森林作り」という目標を1項目追加して頂きたいと希望します。
- 「(案1)22世紀へ、豊かな森を」が具体的かつ明確でよい。<震災復興>はそぐわない。22世紀まで震災復興? <森づかい>が良い。或いは<森の活用>。
- 東日本大震災により、「国際森林年」の存在自体が薄く、今年が国際森林年であること自体世間にあまり知られていない気がする。<震災復興>の面で「日本の復興は日本の木で」ということをもっとアピールすべきであると思う。
- 案1の「22世紀へ」というのは21世紀に始まったばかりの今では熱意が欠けてしまう。案3の「森のチカラ」は抽象的で意味があいまい。3案を合わせて、自案を作ってみた。「豊かな森で、日本を育む」もう少し長くても良ければ、「豊かな森で、日本を育み、元気な明日を」

- 1. 「カスケード利用」という言葉の意味が分かりにくいのでは2. 我が国の古来からの森林文化をより強調してはどうか。3. 我が国における江戸期の森林保護が極めて厳格に行われていたことに対して、外国の専門家が驚いたそうであるが、このような先人の森林保護政策も紹介してはどうか。4. 不在森林所有者で管理を十分に行わないものに何らかのペナルティを課しては。5. 20数年前に水源税が実現しなかったことは残念です。
- 国産材の国内消費を高めるキャンペーンを行ってください。近年中国マネーが日本の「山」、「森林」、「水」を丸ごと買い漁ろうという動きがあります。あとこのころのは荒廃したはげ山です。これを防ぐことを森林メッセージに加えて下さい。
- 手入れがされず放置されたままの日本の森林の現状についてはもっと多くの人に知ってもらう必要がある。10年先、50年先、100年先の日本の森林のイメージを多くの国民に知ってもらうためにも、教育(特に小中学生)の場での日本の森林の現状と有るべき姿を教育すべき。メッセージは(案1)の「22世紀へ、豊かな森を」が良いと思います。森の再生には百年の計が必要。
- 「緑豊かな美しい国土を次世代に残し、いつまでも豊かな森林の恵みを享受するために」私はこのメッセージについて、まず一人ひとりが積極的にボランティアに参加していくことが大切だと思います。そのような意味では、この「国際森林年メッセージ(案)」に賛成します。<人づくり>、<森づくり>、<木づかい><震災復興>全ての案は私の意見と一致し、素晴らしいと思いました。
- 第3案のメッセージがいいです。具体的な提案をしていく中で、林業界では当たり前になっているような専門用語や横文字、カタカナ、略語等はなるべくわかりやすい言い方に置き換え、広く誰もが理解し切れるような記述をしてほしいです。一部の人にしかわからない言葉、用語では、広く賛同を得るのは難しいと思います。木づかいを進める上で、昔ながらの技術・知恵も大切にしながら、現代だからこそできる新しい技術も取り入れていき、木製品がムダなく活用されて当たり前身近にある。そんな世の中になったらいいなと思います。
- 日本文化の形成と日本人形成において、日本の自然、森林は根底に影響を及ぼしている。そのことを再認識して、子ども達への教育分野では、森林の生命の成り立ち、そこにある生物多様性のある生命の多様性が生じることへの理解を十分に与えることをもっと主眼とすべき。豊かな自然感の熟成と共に人間のありようも細やかな配慮を行う生活感の保持に至ることを考慮してほしい。思っています。
- 幼少期から森林保全に係る環境で育成することが必須の条件に思われます。それに加えて、小中学校(特に小学校低学年)児童・生徒を対象とした教育環境の整備が将来の日本の森林の繁栄につながるものかなあと考えます。
- 日本の場合、小規模の林家が山の手入れが出来ない状態を改善するという視点(人づくり5-関わる人-)が薄いように思う。(案)の一、「日本にはきちんと手入れせず放置され」を「日本にはきちんと手入れできず放置され」とすると、少しは、現状が表現できるように思う。

# 2011年国際森林年メッセージ(案)についての国民からのご意見

## <森林年全体に対する意見>

- 今年1年だけではなく、来年以降も持続的な活動を続けてほしい。
- 雇用を生むことが持続可能な地球作りに必要だと思います。様々の取り組みをどんどん紹介してほしいと思います。あとは、そこから私たちが考え、選び、動きます。
- ①国内の森林のみならず、海外の森林と木材にもっと目を向ける必要があるのでは。②外材の供給減少と価格の上昇とにより、今後国産材が注目されるようになる。木材の流通マーケットを整備し、国産材の活用高める方策を推進し、国内森と国土の保全を図るような新プロジェクトを立ち上げたいかがか。
- 今回の3.11の東北大震災今夏の台風12号等による水害を経験して、今こそ自然に対する大切さや、恐れを目の当たりに学んだはずです。これを良い契機として国土を守るすなわち国民、人間の命を守ることに通ずる国土、森林作りを目指すべきです。真剣に考えた上で国民奉仕活動の強制または自分からの奉仕活動も甘んじて受ける覚悟もあります。きちんと説明してくれて、協力を求められれば、良識ある国民は協力、奉仕活動に参加してくれるはず。日本人は力を発揮できると思うし、大部分の日本人はそうしたいと願っていると思います。
- 林業資源の利用技術、高付加価値化を促進し、経済的にも活性化する社会を作してほしい。分散型バイオマス発電(間伐材)なども有効か、建造物、構造物へ本物の木を活用したい!
- 山の資源(間伐材や林地残材)を利用した“つむ木”(積み木)を木育の一環として普及させたい。※所属している森林産業研究会の仲間(中小企業)が開発した製品。(林業の)下流の利用を広げていくことが森林の再生にもつながると考え、開発者を応援していきたい。
- ①現役高齢者から若者への技術等の伝達は、緊急なる重要事項だと思います。(家庭内における伝達も大切だと思います。)②国産材の活用はこういう状況(大震災)にあるからこそ、進めたいものだと思います。(緑の中に住宅等がある生活空間は、被災地の人々にとって、心安らぐ地となるのではと考えます。
- まず、「林道」の整備が先決であると思います。さらにその枝線をつくれれば、伐採も楽しくなるし、参加する人も多くなると思います。森林学校できちんと教育して(大いに宣伝する)それから参加する方が楽しくなる。(女性も参加しやすくなる)(老人も参加しやすくなる)。何しろ体力が必要です。”
- 国産材の利用及び広葉樹林の拡大現状では針葉樹が多く密生しているために、樹木の生育が悪いので、適当な樹間を作るべき間引作業とは端材の利用法等を考えるべきではないだろうか。それによる石油石炭の使用量の減少しながら、緑も多くなる。
- 日本の場合、小規模の林家が山の手入れが出来ない状態を改善するという視点(人づくり5-関わる人-)が薄いように思う。(案)の「日本にはきちんと手入れせず放置され」を「日本にはきちんと手入れできず放置され」とすると、少しは、現状が表現できるように思う。

- 1. 地方の森林は今手入れができないところがほとんどです。私達は国有林の除伐を行っています、植えられて40年以上のヒノキを倒木してそのまま転がしておく状態です。これを利用することが出来たら良いと常に思っています。2. また、地方の若者は働きたくても就職先がないです。森林事業が本格的に動き出せば若者が地方に定着子育てができるのではないかと感じます。3. 山里で主がいなくなった。山の管理も気にかかっています。資源無料提供の形で管理してくれる人が(会が)あればと思います。”
- 山にいる動物のための食物になる木(どんぐりとか)をもっと植えるとよいと思います。
- もう半世紀も前のわたしの子どもの頃、静岡の田舎に遊びに行くと、祖母が従姉・妹たちとともに森に連れて行ってくれた。森の中に落ちていた芝や枯れ木を拾って帰り、お風呂を沸かすときに使ってくれた。子ども心に天からの贈り物を家のために使って後立てた手に嬉しさでいっぱいだったことを覚えています。震災を心幸・森幸に変えるスタートの年になってほしいと思います。豊かな日本の復興を願っています。
- 私は香川県で10年以上前から仲間十数人と森林ボランティアを作り、除間伐や枝打ち、搬出間伐などを続けています。しかし、仲間は増えません。それは本格的な森林整備が究極の3Kの仕事で損得では報われないからです。無論、整備が絡み一条の陽の射すのを見たときの爽快感は何物にも代え難くそのためのボランティアとも言えますが、暇を持ってあます元気な老人を誘い出すには健康づくりにも役立つことから参加者には国保料を割引くなどの特典を与えても良いのでは。それにしても、森林整備については手足を動かすよりは口を動かす人が多すぎます。100回唱えるより一本の木を切る事が、森の整備になるのであり、精神論では何の意味もありません。また森の所有者には整備を義務づけるべきで、出来ない人からは税を徴収し、花より団子で整備の実費に回すべきではないか。
- 放射能に汚染された森林の復旧・再生のことについて何らかの言及がほしいと思います。
- 今、東日本の森が大変なことになっています。原発事故のために森の土や落葉が数万～数十万ベクレルの放射線によって汚染され、今、土や葉を取り除かなければ、放射線が森の生態系に取り込まれ、やがては森の恵みを受けている人間に寄りかかってきます。研究者によっては、今年1年が勝負と発言しているのを耳にします。しかしながら、その労働に携わる方の確保、健康管理、また取り除いた廃棄物の処理等、問題は山積みで、行政が動かなければ、出来るものではありません。どうか、目前にあるこの問題を皆さままでアピールできないでしょうか。
- 東日本大震災を機に、私たちができることを取り組んでいくべき。今一度個々の人々が森に関する心がけを持つこと、私としては、孫たちと一緒に山歩きをしようとして心がけています。